

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 児童虐待SOSを見逃さないために（30分）</p> <p>2019年度厚生労働省のまとめによると、全国の児童相談所で対応した児童虐待の件数が19万件を超え過去最多だったことが分かりました。</p> <p>さらに、新型コロナウイルスのまん延による外出の自粛、収入の減少といった生活不安から、子どもたちへの虐待リスクが懸念されます。</p> <p>虐待に至らないまでも、核家族、共働き、そしてシングル家庭が増えている現在、出産や育児の不安で押しつぶされそうなお母さんお父さんが少なくないでしょう。</p> <p>児童虐待の通告は、鶴ヶ島市でも平成30年度165件、過去5年間で3.3倍、令和元年度は185件と、さらに12%増加しています。虐待とDVの関連は以前から指摘されています。</p> <p>2016年母子保健法が改正され、各自治体はフィンランドのネウボラを参考にした子育て世代包括支援センターをつくることになりました。ワンストップで切れ目のないサポートを子育て家庭に提供する目的で、鶴ヶ島市も翌年からネウボラの仕組みを設置しています。</p> <p>「助言の場」という意味のネウボラは、フィンランドでは、妊娠期から子どもの就学まで同じ保健師が一貫して親子に寄り添い、相談に乗ります。このことが虐待の減少や出生率上昇にもつながっています。</p> <p>ネウボラの仕組みがあることで、子育てのセーフティネットになっているとは思いますが、日本版ネウボラは、フィンランドと同じシステムではありません。育児の当事者との継続的な信頼関係を築くのは時間がかかり、SOSが見逃されるリスクが残されています。</p> <p>いわゆる児童虐待防止法は2000年に制定されていますが、昨年、ようやく「親権を行うものは児童のしつけに際して体罰を加えてはならない」ことが盛り込まれました。</p> <p>3年前になりますがセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによるアンケートでは、ある程度の体罰を容認している人が、まだ57%もいました。</p> <p>虐待への対策対応の現状と虐待を生まないための取組について伺います。</p> <p>（1）包括的支援の仕組みと現状について</p> <p>ア DV支援との連携は。</p> <p>イ 児童相談所との連携は。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>(2) 児童虐待の対応強化について</p> <p>(3) 学校との連携について</p> <p>(4) コロナ禍の懸念について</p> <p>(5) 児童虐待 SOS を見逃さないための対策について</p> <p>2 子どもたちに生涯の食習慣を伝える（30分）</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活を大きく変えてしまいました。</p> <p>友人と出掛け、会食し、談笑することがこれまでのようにはならない不自由さの積み重ねが様々なストレスとなっています。外出自粛が求められた4月以降は、学校の休業やリモートワーク等により身体の不調を感じる人も増加し、運動習慣と食生活の重要性が改めて問われています。</p> <p>コロナ以前から、日本人の食生活の変化と生活習慣病の関連については課題として取り上げられてきました。</p> <p>医食同源という言葉があります。病気を治す薬と食べ物とは、本来根源を同じくするものであり、食事に注意することが病気を予防する最善の策であるということです。</p> <p>日々、台所で食材を前にすると、この言葉が浮かびます。</p> <p>学校、保育所、保育園での給食は、子どもたちの生涯にわたる食習慣を築く重要な食育の役割を担っていることがわかります。</p> <p>2005年の食育基本法制定には、高度経済成長期を経て、多くの人が食の大切さを忘れて食べ物や食べ方を大事にしなくなっており、それは、特に子どもに大きな影響を及ぼしているという背景がありました。その後、食育推進基本計画が策定され、地産地消や朝食の欠食率の減少への取組につながっています。</p> <p>これからの学校給食に求められるのは、安全安心な食材の基準をどこに置くのかという視点であると考えます。</p> <p>例えば、フランスでは、2022年までに給食に使用する食材の約50%をオーガニック又は現地で収穫された食材にすることを目標としています。身近なところでも千葉県のかすみがら市では、全13市立小・中学校の給食で使用するご飯について、全量が無農薬無化学肥料の有機米に改めました。</p>	<p>市長 教育委員会教育 長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>子どもたちにとって給食は、食料自給率を始めとする食に関わる多くの問題を学ぶ場でもあるはずです。</p> <p>食品ロス等の問題に相對して、学校給食しか食べるものがない子どもたちがどの地域にも存在します。子ども応援ポータルサイト立上げの経緯は伺いましたが、熊谷市では、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた子育て世帯の経済的負担の軽減を目的に、学校給食費を10月から6か月間、無償化しています。</p> <p>「健康つるがしま21」は、計画策定の際に小・中学生にも運動や食生活についてのアンケートを実施していますが、全般的には高齢者の健康維持が目的となっています。子どもたちの食育は、将来の健康寿命につながるものと捉え、質問します。</p> <p>(1) 学校、保育所、保育園での食育の推進について</p> <p>(2) 地産地消と無農薬食材の取組について</p> <p>ア 学校での取組の割合は。</p> <p>イ 保育所、保育園での取組の割合は。</p> <p>(3) 給食を楽しむ工夫について</p> <p>ア 学校給食アンケートの反映は。</p> <p>イ メニューや食事形式の工夫は。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症対策としての給食費の無償化について</p>	